

[専門教育科目/看護の基本]

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
基礎看護学実習 I	NSP12_003	必修	1	1	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
平尾 眞智子 他	401	m.hirao	月曜日～金曜日 12:10～13:00		
授業の目的・概要	<p>【目的】疾病構造の変化、医療の高度化、看護の場の多様化に伴い看護師の役割は大きい。国民の期待に応えるための看護師としての能力を高めるには臨地実習での充実は不可欠となる。ここでは、1年次に医療現場で初めて看護の対象者と関わる。看護が提供されている場を通して、健康問題を抱えている看護の対象及び看護の役割・機能を理解し、コミュニケーションを図り看護職者としての基礎的能力を養うことを目的とする。</p> <p>【概要】病棟実習において看護の実践の見学・一部実施をするとともに、看護の対象者とコミュニケーションを図る。</p>				
学習上の助言	この実習では、看護援助方法論 I で学んだコミュニケーション、日常生活援助を見学及び一部実施、またフィジカルアセスメントで学んだバイタルサイン測定の技術が必要となるので、それらの技術の復習をしておくことが求められる。				
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・学内資料「看護学概論講義資料集」 ・系統看護学講座 基礎看護学② 基礎看護技術 I 第 16 版/著・茂野香お他/医学書院/2019 ・系統看護学講座 基礎看護学③ 基礎看護技術 II 第 17 版/著・任和子 他/医学書院/2019 [3冊指定] 				
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・看護覚え書 本当の看護とそうでない看護/著：F. ナイチンゲール/日本看護協会出版会 ・看護の基本となるもの/著：V ヘンダーソン/日本看護協会出版会 				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	安全で快適な療養生活を支援する環境を整えることができる		HSU (2)、NS (2)		
②	対象者とコミュニケーションを通して相互の関係形成を図り、対象者のおかれている立場や思いを理解し説明することができる		HSU (2)、NS (2) (3)		
③	対象者の療養生活を支える家族及び家庭の機能・地域環境を理解し説明することができる		HSU (2)、NS (4)		
④	看護の機能と役割について理解し説明することができる		HSU (1) (2)、NS (1) (4)		
⑤	看護専門職者の一員としての基本的態度を養い、行動することができる		HSU (1) (4) (5)、NS (1) (5)		
授 業 計 画					
1. 実習の時期 1年次 2月					
2. 実習の具体的内容 1) 湿度計・室温計・騒音計等の計測器を用いて、対象者の療養環境を観察する。 2) 対象者の環境整備を実施し療養環境を整える。 3) 看護師に同行し対象者の看護活動を見学すると共に、看護師とともに日常生活の一部を実施する。 4) バイタルサインを測定すると共にコミュニケーションを図り、対象者の状況・思いを理解する。 5) 申し送りやカンファレンスに参加し、看護職間及び多職種との情報共有・連携を学ぶ。					
3. 実習の展開					
1日目(半日)	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目(半日)
病院・病棟 オリエンテーション	病棟実習	病棟実習	病棟実習	病棟実習	実習のまとめ
4. 学生の配置 学生は1グループ4～6人とする。					
5. 実習最終日の実習のまとめについて 病棟実習最終日に行う「実習のまとめ」の話し合いをもとに、気づき・学びが深まったことを整理する。それをもとに「まとめのレポート」課題に取り組む。					
6. 最終提出について 各個人で自己評価表、まとめのレポート、実習最終日のまとめ記録、病棟・病室の環境理解記録、対象理解のための患者情報記録、日々の実習記録、健康チェック表を提出する。 詳細については、実習オリエンテーション時に説明する。					

[専門教育科目/看護の基本]

事前事後学習内容・必要時間(時間)							
1. 実習オリエンテーション(1.5時間×3≒4.5時間) 1) 実習前の時間を確保し、計3回、実習の位置づけ・実習目的・目標・具体的行動目標・倫理等について説明を行う。 2) 実習の具体的内容や記録物、実習に向けての態度・心構え等について説明を行う。							
2. 事前学習(4.5時間) 実習目的・目標を達成するために必要な事前課題を提示する。看護学概論・看護援助方法論 I ・フィジカルアセスメントの知識を整理する。また、実習に必要な技術の練習を行う。							
3. 病棟・病室の環境理解記録、対象理解のための患者情報記録、日々の実習記録(5時間) 日々の実習終了後、学び、考えたことをまとめる。							
4. 実習のまとめのレポート(6時間) 全ての実習終了後、看護学概論の授業に結びつけて考察し、自分の考えをレポートにまとめる							
必要時間： 20時間							
達成度評価							
総合評価割合(%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	14	0	0	86	100
総合力指標	知識・技術力	0	0	0	0	38	38
	思考・推論・創造する力	0	10	0	0	10	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	8	8
	発表・表現伝達する力	0	4	0	0	0	4
	コミュニケーション力	0	0	0	0	5	5
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	20	20
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	5	5
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点				フィードバックの方法	
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
レポート	①	✓	実習のまとめのレポートとして、実習終了後にレポートを提出する。テーマ及び字数等の様式など詳細については、実習オリエンテーション時に配付する実習要項を用い説明を行う。				テーマに基づいた内容であるかを確認し、課題等についてコメントする。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
その他	①	✓	実習評価表の評価項目に沿って評価する。その日学んだ内容は、日々の実習記録に記入する。病棟病室の療養環境について観察した内容は病棟・病室の環境理解記録用紙に記入する。患者を捉えるためにコミュニケーション等から得た情報は、対象理解のための患者情報記録用紙に記入する。実習における態度については総合的に評価する。				最終日に学生自身の課題が明確になるよう自己評価表を用い面接を行う。実習中の知識・技術・態度等については実習指導教員及び実習指導者が適宜助言等を行う。実習記録の内容を確認し、適宜指導を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
備 考							
担当教員：◎平尾 眞智子、窪川 理英、溝口 孝美 教員の実務経験：指導教員全員は、基礎看護学教育経験として10年以上を有している。 各担当教員が看護師として臨床で働いていた経験をもとにし、学生が倫理的な判断をするための基礎的能力を養えるよう実習指導を行う。							
「基礎看護学実習 I 実習要項」を前もって配付するのでよく読むこと。 各自、自分が配置された実習施設への交通アクセスについて確認しておくこと。 今後のコロナ感染症の発生状況によってはシラバス変更があり得る。							